

# 『合唱』 寸評

- ・ なごやかな旋律線が合唱にふさわしい 音域も的を得ている
- ・ メロディとバスの関係も良好
- ・ ピアノのアルペジオも効果的
- ・ ソプラノとアルトに歌詞の指示がないが（または母音唱法か）打込みを想定しているのだろうか
- ・ 楽器編成から舞台音楽を想起させる

## 完成度をさらに上げるために

- ・ m.5 b.3アルト上声のドはこの和音とぶつかるのでシのまま
- ・ m.9アルトF#はこの和音とぶつかるのでF#のままがよい
- ・ 『合唱』ではなく具体的な作品名がほしい
- ・ 作品に対する作者の思いがどこにあるか、これでは奏者に伝わりにくい
- ・ ピアノのアルペジオは弾きやすさも考慮したほうがよい (ex. m.5-6, 13-14)
- ・ ソプラノとアルトは終始分かれて歌うのでSoprano 1,2 等2パートを明記したほうがよい
- ・ バスがすべてコードの主音なので、バスの研究もすすめてみよう

m.=measure 小節番号のことです。  
b.=beat 拍のことです。

この調子ですすめましょう。

持麿 勉